カツオ標識放流調査報告
１９７０年～１９７２年

沖縄県水産試験場　友　利　昭之助

日本近海におけるカツオ標識放流はかなり以前から断続的に行なわれてきたが１９６７年以降カツオ国際共同調査の一環として水産庁東北海区水産研究所を中心に日本近海において宮崎、静岡、千葉等各県水産試験場による大規模なカツオ標識放流調査が継続して実施されており、日本近海におけるカツオの回遊、生長等について多くの知見が蓄積されつつある。

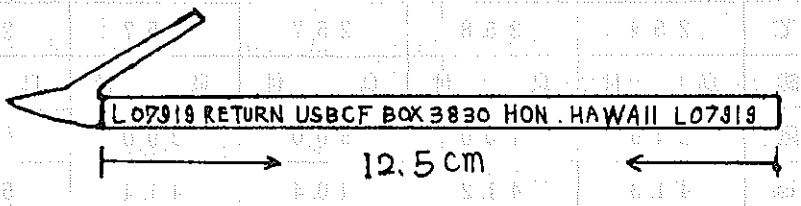
沖縄県水産試験場（旧琉球水産研究所）は旧 Bureau of Commercial Fisheries Biological Laboratory, Honolulu, Hawaii の協力を得てインド－太平洋カツオ、マグロ国際共同調査に Ryukyu Fisheries Experimental Station, Govermen of Ryukyu Islands の名称で参加し、１９７０年以降カツオ標識放流調査を調査船図南丸（１５９.３１トン　４００ps）により実施しており今後も継続実施の予定である。

カツオ標識放流調査を実施するにあたり種々の御教示と協力を戴いた Southwest Fisheries Center Honolulu and La Jolla Laboratories, Honolulu, Hawaii の Mr. Otsu に謝意を表する。また沖縄県水産試験場長伊佐次郎氏に本報告の校閲を戴いた。

1. 使用標識および魚体装着方法

現在世界の多くの研究機関で使用されているカツオ、マグロ用標識の一種でダート型標識を用いた。

図１. ダート型標識図



標識は " Bureau of Commercial Fisheries Biological Laboratory Honolulu Hawaii（現在の Southwest Fisheries Center Honolulu and La Jolla Laboratories Honolulu Hawaii）が製作したものでありプラスチック管とナイロン頭部からなる。プラスチック管は黄色で長さ１２.５cm外径３mm内径２mm頭部８mmである。表面の文字と番号は黒色で記載してある。

標識の装着位置は魚体の右側で第二背鰭端と第一副鰭の間である。